

導入の一步はポンコツ(?)でも良い!? 早めの着手と「PDCA」が大事

国は、二十二年を目標に全ての食品において、HACCP手法導入を法律によって義務化する方針にあります。迎える東京オリンピックでの選手の食品調達は基準が厳しく、HACCP導入が遅れている日本の食品業界にあつて、絶好の機会である東京オリンピックでは、国内製品の品質を国外にアピールし難い状況にあります。

こうした状況から、未実施企業ではHACCP導入の気運が高まつており、「HACCP導入のための研修会(主催：NPO法人HACCP導入研究会)」が開催され、生産振興課から清水一彦係長と稲村正雄主任が参加して、HACCP導入の必要性・メリット、導入ポイント(七原則十二手順)等の講義と、実際の導入手順に就いたグループミーティングを学びました。

HACCP導入にあたっては、HACCPチームの編成から始まり、各作業工程の危害要因の分析。これに対する管理基準の設定が必要であります。講師からは「はじめに作る内容はポンコツでもいい。PDCAサイクル

によって修正を繰り返すことで良いものを作っていくことが大切。今のうちに取り組むことが肝要」とアドバイスされ、早期導入を促されました。

当組合では、広域生乳需給調整施設(三次CS)やミルクファームHARUが食品等事業者にあたり、食品取扱いや原料の貯蔵管理等を行っていることからしても、将来の義務化に対応できるHACCP導入に積極的に取り組む必要から、検討に着手しました。

※HACCPとは

食品の製造・加工工程のあらゆる段階で発生するおそれのある微生物汚染等の危害をあらかじめ分析(HazardAnalysis)し、その結果に基づいて、製造工程のどの段階でどのような対策を講じればより安全な製品を得ることができるかという重要管理点(CriticalControlPoint)を定め、これを連続的に監視することにより製品の安全を確保する衛生管理の手法である。

この手法は国連の国連食糧農業機関(FAO)と世界保健機関(WHO)の合同機関である食品規格(コーデックス)委員会から発表され、各国にその採用を推奨している国際的に認められたものである。

DMSの活用で 酪農経営の課題を解決

導に取り組むことを掲げている。

この組合員支援の一つとして、組合員の月々の受託販売生乳代金明細書の内容をDMSシステム(e酪農会計システム)にデータとしてインポートすることによって、利用組合員の月々の経営状況を把握し、経営指導に活用しており、当組合の職員の知識・操作レベルの向上を目的に、全酪連購買部酪農生産指導室課長 丹戸 靖氏を講師に招き、全酪連職員を含め八名が会計、後継者への事業継承の方向性、手続き等の共通の課題をテーマに研修を受けた。

今後は、飼養管理、飼料計算等の専門知識に加え、会計に関わる知識を高めることで、組合員からの相談にスピード感をもって対応ができるよう、レベルアップを図るため、継続的に開催する。



当組合では、今年二月一日付けの組織機構再編において、組合員からの経営・技術指導の相談に速やかに対応できる体制を整備するため、「経営支援課」を新設し、組合員の経営支援・指

「LGBT」って何？

社会規範・常識の変化

広島県農林水産局主催による「平成二十九年 広島県農林水産局 人権啓発研修」が開催され、農林水産関係団体、県農林水産局職員ら百二十一名が出席し、広酪からは河内山洋係長（総務管理課）が出席した。テーマは「LGBTの人権について」と題して、広島大学ハラスメント相談室 准教授の北仲千里氏の講演を聴講した。

「LGBT」とは、Lレズビアン、Gゲイ、Bバイセクシャル、Tトランスジェンダーの頭文字で、これらの人権に関する基礎知識についての説明を受けた。「LGBT」の「LGB」と「T」は別次元の関係にあり、「LGB」は性的指向(性的対象・恋愛対象が男性か、女性か、或いは両方かという話で、「T」は心の性別(出生時に割り当てられた自分の性別を受け入れなかったり、そこからはみ出す個性を持つていたりする人)とあった。

この問題についての考え方として、近年では社会規範の変化、常識の書き換えが起こっており、数十年前はトランスジェンダーも同性愛者も「頭がおかしい」と思われ、治療がなされてきたが、現在ではトランスジェンダーの場合、「頭がおかしい」との考えから「そ

そして、考え方も変化

の人の心がその人の人格だ」という考え方に変わり、特に日本では「性同一性障害」という診断名が表れ始めてから社会の態度が変わった。同性愛者の場合は、逆に「精神医学の診断リスト」から外されることによって、むしろ社会的に肯定される方向に進んでいる。

「LGBT」は約五十人に一人〜二人いると考えられており、同性愛者であることを理由とした不利益取扱いは「差別」と認定され、政治家やスポーツマンなど、かなり多くの人がカミングアウトされているものの、その一方で、日本ではまだ、同性婚等の制度が認められておらず、学校や職場での差別いじめが当事者の悩みとなり、自殺者も少なくない。

現在、「レズ」や「ホモ」は差別的表現とされており、最近では、テレビのコメディー番組で数十年前のキャラクターが、同性愛者を揶揄する内容と抗議を受け、フジテレビのトップがその責任を問われ、謝罪するといった社会問題も起きている。

「LGBT」に限らず、何気ない一言から、当事者は心に深い傷を負うこともあり、普段から言動には気をつける思いやりが大切ではないでしょうか。



フードフェスティバル 2017

10/28(土)・29(日)



酪農アンテナショップ「ミルクファームHARU」は、今年も広島城址公園周辺で開催される「フードフェスティバル」に出展し、県産牛乳使用の手作りアイスクリームや七塚バター、ミルクシェイクの販売を通じた、県産牛乳・乳製品をPRします。RCCラジオでの生放送での酪農や牛乳・乳製品のPRも行います。

また、広島県牛乳普及協会は28日限定で骨密度測定を実施して普及活動にあたります。広酪メンバーズクラブやひろらく女性グループ連絡協議会からも事業活動の一環で応援に来ていただきます。県内全23市町の食が集まり、神楽等の広島の風土を楽しめる2日間です。ぜひお越しください。

- 開催場所: 広島城とその周辺、広島市中央公園
- 開催期間: 2017年10月28日(土)、29日(日)
- 開催時間: 午前10時～午後5時
(28日広島城広場のみ夜神楽上演のため午後8時まで)
- 入場料 : 入場無料 (但し、各ブースでの飲食他は有料)